

# ICM DB ルックアップ機能の設定例

## 目次

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[設定](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

## 概要

このドキュメントでは、外部データベースからデータを取得し、スクリプトでそのデータを使用するために Intelligent Contact Manager ( ICM ) で DBLookup を設定する方法を説明します。この機能の設定方法を説明するため、このドキュメントでは、( 優先サービスを提供する場合などに ) 発信者がリストに含まれているかどうかをユーザが確認するというシナリオ例を使用します。

## 前提条件

### 要件

このドキュメントに関しては個別の要件はありません。

### 使用するコンポーネント

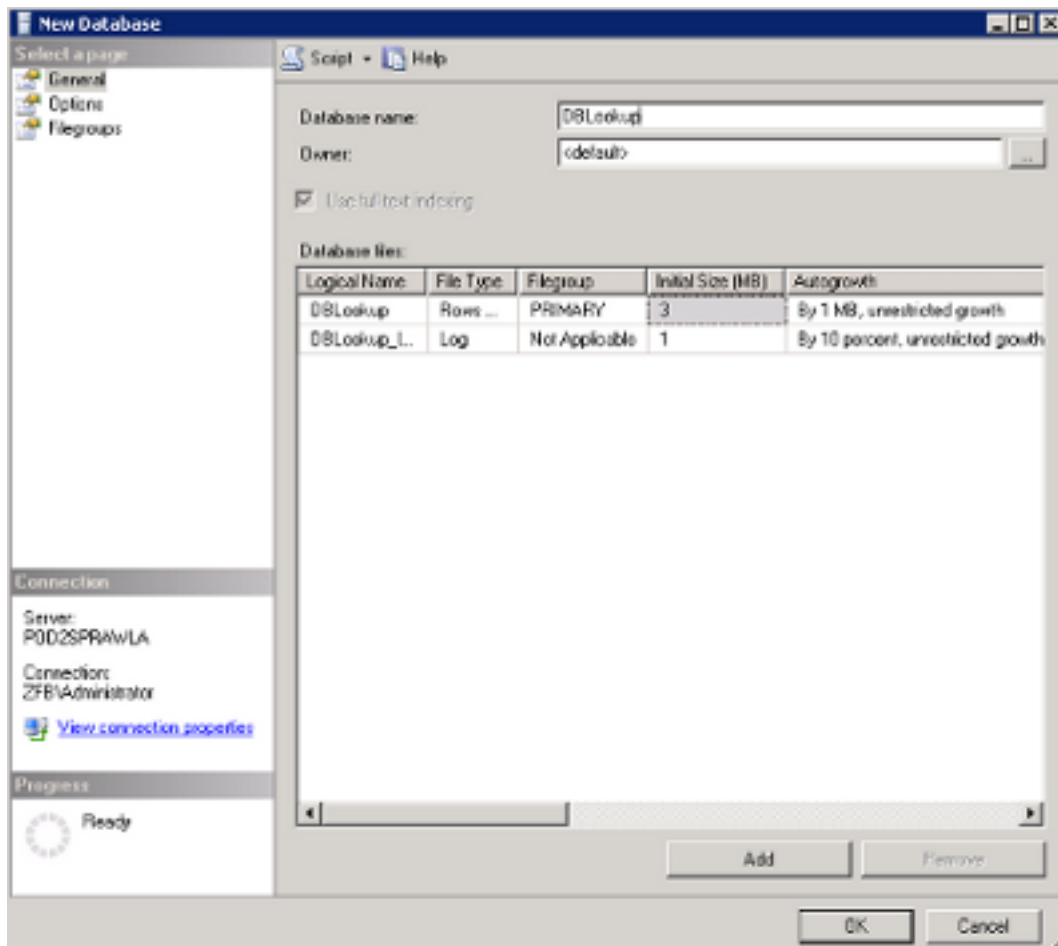
このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 ( デフォルト ) 設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください。

## 設定

### 1. データベースを作成します。

最初にデータベースを作成します。 Microsoft SQL Server Management Studio で [Databases] を右クリックし、 [New Database] を選択します。



次に、このデータベースにテーブルを作成します。作成した新しいデータベースで [Tables] を右クリックします。次に、いくつかの列を追加できます。

	Column Name	Data Type	Allow Nulls
🔑	Phone	varchar(15)	<input type="checkbox"/>
	First_Name	varchar(15)	<input checked="" type="checkbox"/>
	Last_Name	varchar(15)	<input checked="" type="checkbox"/>
	City	varchar(15)	<input checked="" type="checkbox"/>

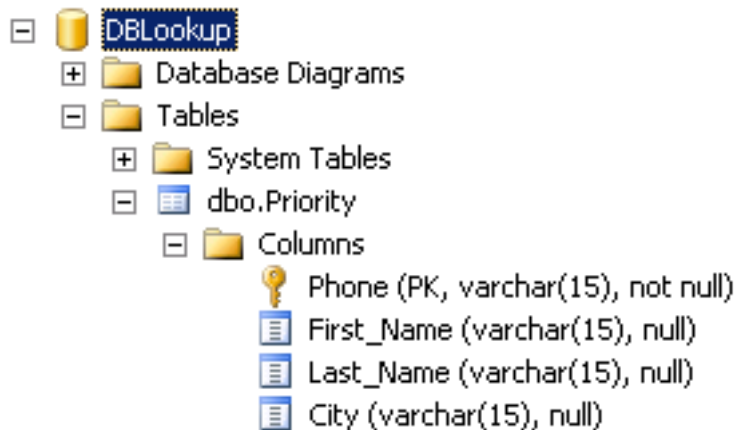
注: DB 検索ノードによってア

クセスされる表内のすべての整数フィールドを NOT NULL として定義します。SQL データベースでサポートされているのは、次のデータ型だけです。SQLINT1 ( tinyint )、SQLINT2 ( smallint )、SQLINT4 ( int )、SQLCHAR ( char )、SQLVARCHAR ( varchar )、SQLFLT4DBFLT4 ( real )、SQLFLT8DBFLT8 ( float )、および SQLDATETIME ( datetime )。SQLDATETIME、SQLVARCHAR、および SQLCHAR を除くすべてのフィールドを NOT NULL フィールドとして定義する必要があります。除外した 3 つのフィールドは NULL として定義できます。varchar データ型を選択します。これは、varchar では数値に文字を使用できる柔軟性があるためです。[Phone] 列をプライマリキーとして設定するため、[Allow Nulls] のチェックボックスをオフにします。この列をプライマリキーとして設定するため、右クリックして [Set Primary Key] を選択します。

	Column Name	Data Type	Allow Nulls
▶	Phone	varchar(15)	<input type="checkbox"/>
[F]	Set Primary Key		<input checked="" type="checkbox"/>
[L]	Insert Column		<input checked="" type="checkbox"/>
C	Delete Column		<input checked="" type="checkbox"/>
	Relationships...		<input type="checkbox"/>
	Indexes/Keys...		
	Fulltext Index...		
	XML Indexes...		
	Check Constraints...		
	Spatial Indexes...		
	Generate Change Script...		

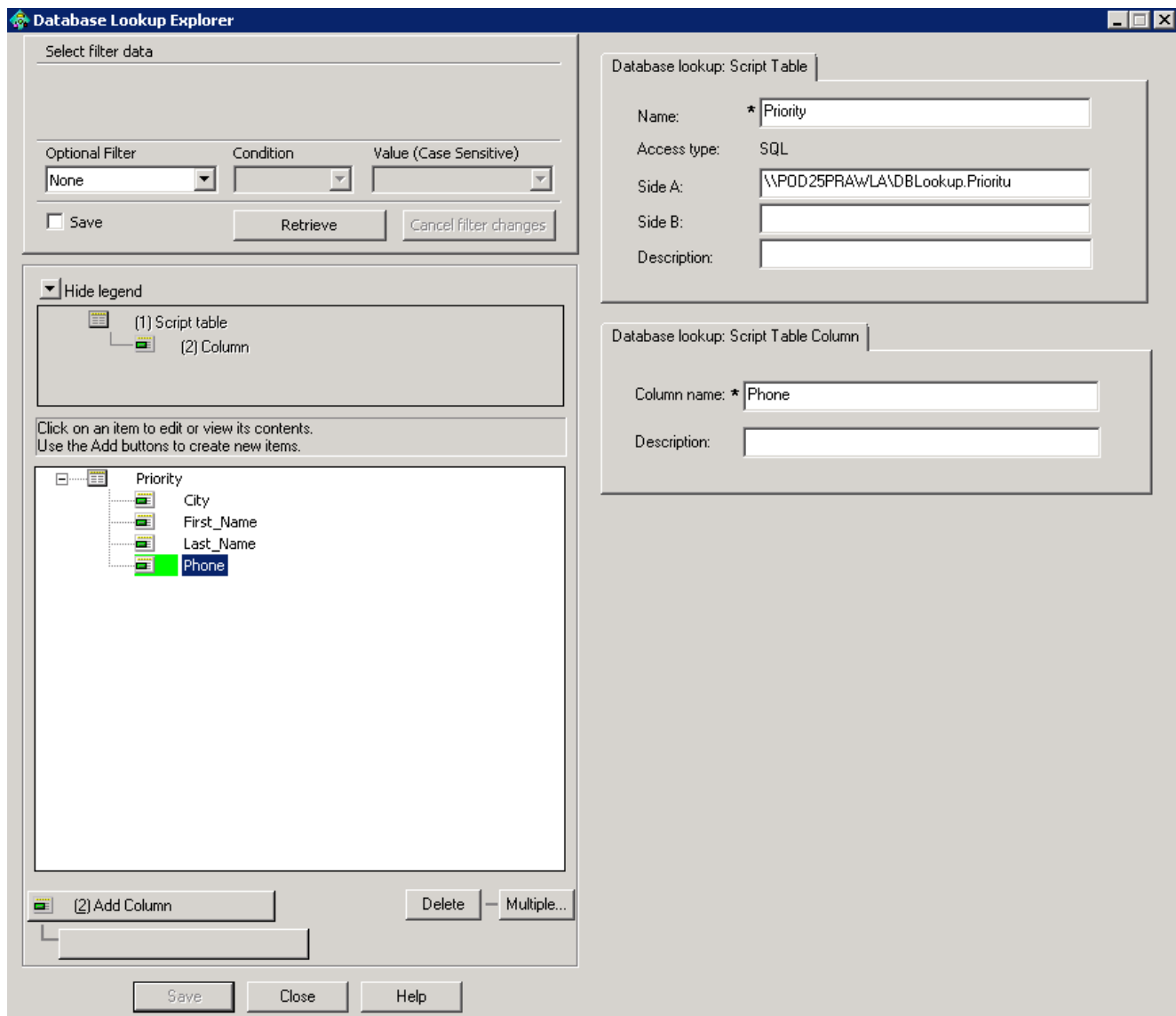
上記の手順が完了したら、変

更を保存します。これで、テーブルにデータを追加できます。



## 2. このデータベースに接続するために ICM を設定します。

Explorer ツールの下の Configuration Manager を使用して [Database Lookup Explorer] を開きます。次に、新たに作成したデータベースと列を追加します。



デフォルトでは、システムでは **sa** と空のパスワードが使用されるため、データベースにログインするためのユーザ名/パスワードを設定する必要があります。次のキーを使用してレジストリでユーザ名/パスワードを設定します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Cisco Systems,
Inc.\ICM\inst1\RouterA\Router\CurrentVersion\Configuration\Database\SQLLogin
```

次の例は、ドメイン ユーザを使用したキーの設定方法を示します。

```
\\POD25PRAWLA\DBLookup=(ZFB\Administrator,password)
```

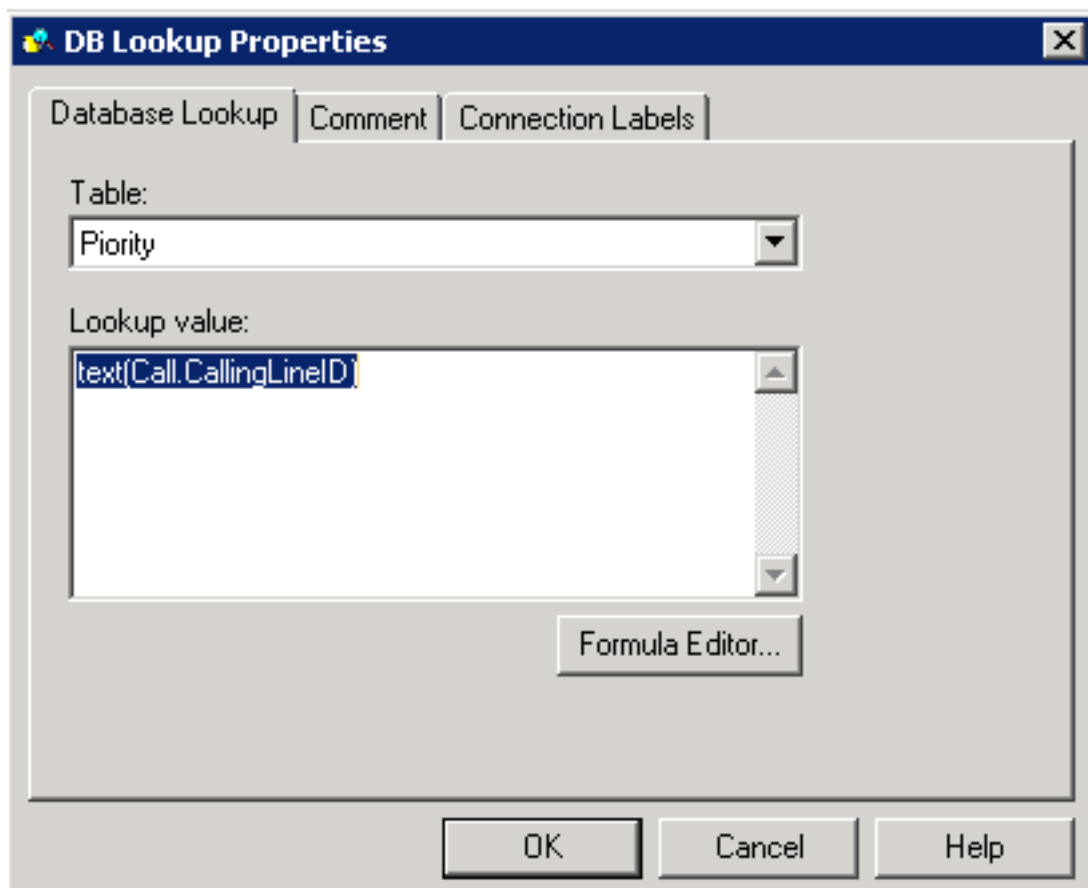
**注:** パスワードで次の特殊文字を使用しないで下さい: 「=」、「)」、「(」、「」、「か」、「\」、「/」

3. [Edit Router] 画面で [Enable Database Routing] を選択してください。この画面は、Web インターフェイスのルータ セットアップからアクセスできます。



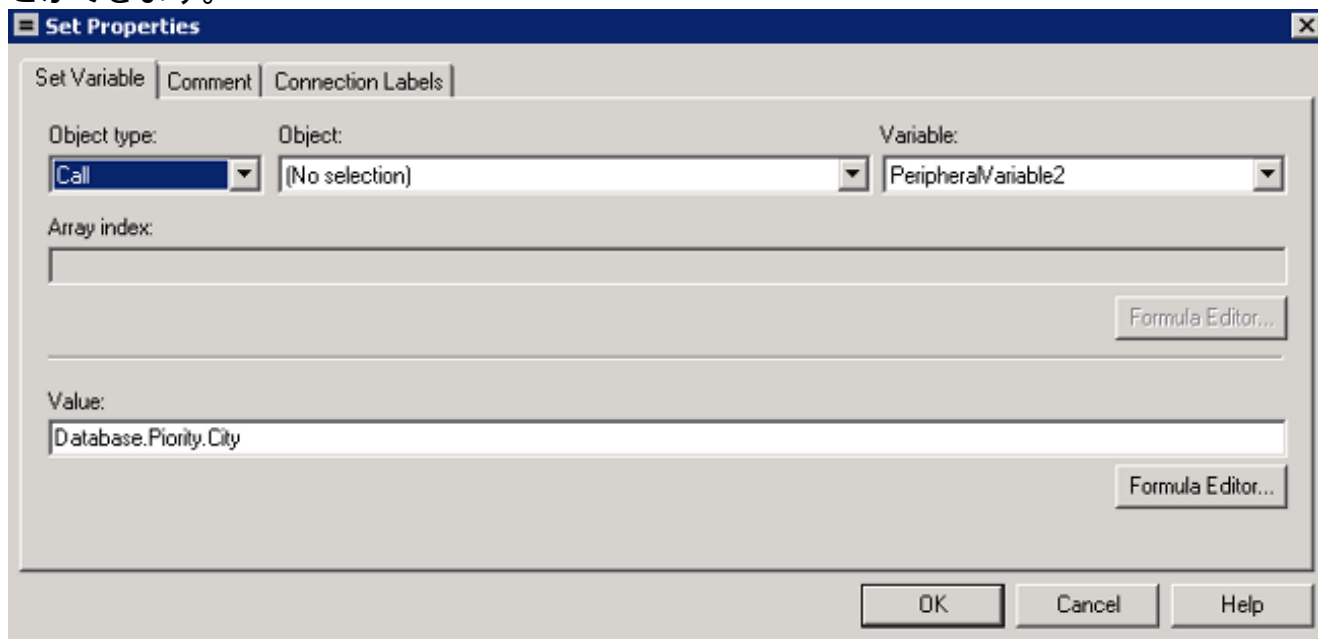
#### 4. このデータベースをスクリプトで使用します。

[DBLookup] ノードを追加し、検索するテーブルを指定します。次の例は、CallingLineID を使用した Priority テーブルの検索を示します。データ型として nchar が選択されたため、検索を入力する前に数字を文字列に変換する必要があります。



検索はプライマリキーとして設定された列で実行されます。後で、同一行のデータを使用してコール変数に値を取り込むことができます。次の例は、データベースと Configuration Manager の両方

に [City] という列を追加する方法を示します。この列にはスクリプトでデータを取り込むことができます。



The screenshot shows a 'Set Properties' dialog box with the following fields and values:

- Object type: Call
- Object: (No selection)
- Variable: PeripheralVariable2
- Array index: (empty)
- Value: Database.Priority.City

Buttons: Formula Editor... (for Array index), Formula Editor... (for Value), OK, Cancel, Help.

## 確認

この項の情報を使用して、DB Worker が外部データベースに接続できることを確認します。DB Worker プロセスの最終再起動時点以降のログを含む dbw.txt というテキスト ファイルを作成します。

```
C:\Users\Administrator.ZFB>cdlog <instance_name> ra  
C:\icm\inst1\ra\logfiles>dumplog dbw /o /ms /last
```

dbw.txt が含まれているデータベースに DB Worker が接続できることを確認します。

```
C:\Users\Administrator.ZFB>cdlog <instance_name> ra  
C:\icm\inst1\ra\logfiles>dumplog dbw /o /ms /last
```

DB Worker ログには、( スクリプトの DBLookup ノードによりトリガーされる ) プライマリ キー列に一致するエントリがない場合に次の応答が示されます。

```
C:\Users\Administrator.ZFB>cdlog <instance_name> ra  
C:\icm\inst1\ra\logfiles>dumplog dbw /o /ms /last
```

一致するエントリがある場合の応答は次のとおりです。

```
C:\Users\Administrator.ZFB>cdlog <instance_name> ra  
C:\icm\inst1\ra\logfiles>dumplog dbw /o /ms /last
```

## トラブルシューティング

現在のところ、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。